



新たな資源 地熱発電に期待大



庄内町長 富樫 透

日本は世界第3位の地下資源量を持ちながら、現在、地熱発電で利用されている容量は世界第10位のことです。仮に、日本の地下資源量の1割を開発するだけで、世界第2位の地熱発電容量になるといわれるほど豊富な資源に恵まれています。

また、地熱発電は天候に影響されることもなく、二酸化炭素も出ないことから、年間を通して安定してエネルギーを供給できる資源として、ゼロカーボンやSDGsの取り組みが進む中で注目されている再生可能エネルギーになっていきます。

本町では、今まで風車をはじめ、木質バイオマス、天然ガスコージェネレーションなどの取組みで、地域特性を生かした新エネルギーの利用、二酸化炭素の抑制、環境負荷の軽減などを図ってきたところで、そこに、全国各地で実績のある(株)町おこしエネルギーの社長が来庁し、本町にも立谷沢地区（たごさわ）の濁沢（にごさわ）に地熱発電に有望な場所があるとの情報をいただきました。ぜひ、無償で調査をさせていただきたいとのことでした。約2、3カ月のボーリング調査で熱源の有無が判断できるそうです。

通常、100本掘っても、3%～5%の確率しか熱源に当たらないそうですが、専門家の解析によると、濁沢の確率は通常の2～3倍は期待できるとのこと、今年6月から調査が始まる予定です。

地熱発電が進まなかった理由には、調査から運転開始まで15年以上かかっているという話がありました。現在は、技術革新をしながら5年で操業できるスケジュールを組んでいるそうです。

地元の雇用拡大も含め、うまくいけば北月山荘の源泉にも利用できるとの説明もいただきました。5年後2つの温泉が楽しめたらと期待するばかりです。